

# 図画工作・美術

教科別研究主題 一人一人を生かす図画工作・美術指導の在り方

## 研究概要及び索引語

本研究は、一人一人を生かす図画工作・美術指導の在り方を追究したものである。

県内の小・中学校における図画工作・美術指導に関して、「図画工作・美術に対しての授業に関する意識」、「図画工作・美術指導の実態」について調査研究をした。さらに、児童生徒一人一人がそれぞれの個性に応じて、自らが主体的につくる喜びを味わいながら、よさや可能性を発揮した授業実践を通して研究した。

索引語：図画工作，美術，主体的活動，意識・実態調査，学習指導，造形教育

## 目次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| はじめに                           | 81 |
| 1 研究のねらい                       | 81 |
| 2 研究主題に関する基本的な考え方              | 81 |
| 3 図画工作・美術指導に関する意識・実態調査         | 82 |
| 4 授業研究                         | 85 |
| 【授業研究1】小学校第5学年「夢の〇〇をつくろう」      | 86 |
| 【授業研究2】中学校第1学年「こんな看板があったら楽しいな」 | 91 |
| おわりに                           | 96 |



## はじめに

新しい学力観に立つ教育においては、児童生徒が自ら考え、判断し、表現や行動ができる主体的な能力や創造性の基礎を培うことを目指している。児童生徒が自分のよさや可能性などを発揮しながら進んで学習活動を展開し、このような能力などを自ら獲得し、身に付けるようにする必要がある。そこで、本研究では、一人一人の特性などを十分に把握し、それらを生かすことができる教材や題材を設定するとともに、その指導の展開に当たっても一人一人の考えや思いなどを積極的に生かすなど、もてるよさや可能性を発揮した図画工作・美術の学習指導の在り方を授業実践を通して探らうとするものである。

### 1 研究のねらい

- (1) 一人一人を生かす図画工作・美術の学習指導に関する調査研究をする。
- (2) 一人一人を生かすための、指導法の改善・充実に役立てる学習指導の在り方を追究する。

### 2 研究主題に関する基本的な考え方

主体的な活動とは、児童生徒自らが進んでものごとに取り組む活動であり、一人一人が自分のよさや可能性を生かして学習活動を展開することである。児童生徒一人一人が、感じたこと、思ったことなど、自分の思いを好きな形や色、線、材料などで表したり、作ったりする造形的な創造活動は、児童の発達の特徴から考えて、特に親しみやすく進んで楽しみ、その喜びを味わうことができる活動である。児童生徒がこのような造形活動を楽しむためには、さまざまなことやものなどに対して、興味・関心を持ち、進んでそれらを見たり触れたりするなどして、自分なりの感じや思いなどを持って、それらを表現しようとする意欲が必要となる。

さらに、一人一人を生かすためには、児童生徒のもつ興味・関心を踏まえ、「自分が進んで自分なりの感じや思いで製作する過程を楽しむ」という意識を持って取り組めるように学習を展開していくことが大切である。

このような取り組みは、児童生徒の積極性にまかせるだけで実現されるものではなく、教師による意図的・計画的な授業の構想と支援があってはじめて可能となるものである。

そのためには、次の(1)～(5)のような手だてが有効である。

- (1) 題材の導入場面では、児童生徒がはっきりとした表現意図をもてるよう、資料提示の工夫などをして構想段階の指導からメモやアイデアスケッチなどをして見通しを持たせるようにする。
- (2) 題材の中に活動的でゆとりのある内容で、よさや可能性を発揮して充実した学習活動ができるように、試行や確認ができる材料コーナーなどの場を設置して製作に必要な材料を選択できるようにする。
- (3) 児童生徒相互が、それぞれのよさを発揮し、お互いの学び合い、教え合いを通して豊かな表現活動をするように学習形態を工夫する。
- (4) 児童生徒が製作に自信を持って積極的に取り組むことができるように、材料や用具などの基礎的な扱い方を日頃から十分に習熟できるようにしておくようにする。
- (5) 児童生徒の学習状況を的確に把握し、それを学習指導に生かすために、学習過程におけるよさの評価を大切にして、指導に生きる評価に努める。

### 3 図画工作・美術指導に関する意識・実態調査

児童生徒の図画工作・美術に対する関心や興味及び学習指導の実態を調べるため、意識・実態調査を実施した。

#### (1) 調査対象

- ア 児童生徒 … 県内の小学校11校の第5・6学年，中学校11校の第1・2学年からそれぞれ1クラスを抽出した。回答者数は小学校第5学年 332人 第6学年 341人 中学校第1学年 342人 第2学年 339人 計 681人である。
- イ 教師 …… 無作為に抽出した県内の小学校 100校，中学校 100校から，図画工作・美術担当者を対象とした。回答者数は小学校96人 中学校95人 計191人である。

(2) 実施時期 平成6年10月24日から10月29日まで

#### (3) 調査項目，調査結果及び分析

児童生徒を対象にした調査内容と結果については，表1～6に示し，教師を対象にした調査内容と結果については，表7～10に示す。なお，表中の数値は，全て回答者数に対する各問の回答数の割合（％）である。

#### ア 児童生徒の実態

##### (ア) 授業への取り組み

「楽しい，やや楽しい」は小学校で約90％，中学校で約80％の児童生徒が答えている。学年が上がるにつれて「楽しくない，やや楽しくない」が増加していくことがうかがえる。「楽しい」は学年が進むにつれ，減少している。

表1 授業への取り組み

| 図画工作・美術の授業は楽しいか。 | 小<br>5 | 小<br>6 | 中<br>1 | 中<br>2 |
|------------------|--------|--------|--------|--------|
| 楽しい              | 57.5   | 42.2   | 28.4   | 34.2   |
| やや楽しい            | 35.2   | 45.2   | 50.9   | 42.5   |
| やや楽しくない          | 4.2    | 9.2    | 12.9   | 16.8   |
| 楽しくない            | 2.4    | 0.9    | 5.3    | 2.4    |
| その他              | 0.6    | 2.3    | 2.6    | 4.1    |

##### (イ) 楽しいと思うこと

「工作をすること」がどの学年でも1番高い割合を示している。小学校5学年53.3％，小学校6学年58.9％，中学校1学年44.2％，中学校2学年40.1％である。「絵をかくこと」は小学校から中学校へ進むにしたがって徐々に減少する。

表2 楽しいと思うこと

| どんなことが楽しいか。(2つまで) | 小<br>5 | 小<br>6 | 中<br>1 | 中<br>2 |
|-------------------|--------|--------|--------|--------|
| 絵をかくこと            | 50.0   | 41.9   | 43.6   | 35.4   |
| 工作をすること           | 53.3   | 58.9   | 44.2   | 40.1   |
| 空想，想像が好き          | 21.1   | 22.9   | 20.2   | 26.3   |
| 作品を見ること           | 23.8   | 24.6   | 24.9   | 22.7   |
| 自由に作品に表現          | 33.7   | 27.6   | 22.2   | 23.6   |
| その他               | 3.0    | 2.3    | 3.2    | 5.3    |

(ウ) 授業への希望

「どのような授業を希望しますか」という問いについては、小学校は「いろいろな材料を利用」しての授業を希望していることが5年で39.8%、6年で52.5%いる。中学校では「遊びを取り入れて」の授業を希望するものが1年で57.0%、2年で59.3%いる。「班やグループを取り入れた授業を期待しているものが約35%いることが分かった。

表3 授業への希望

| どのような授業を希望するか。(2つまで) | 小<br>5 | 小<br>6 | 中<br>1 | 中<br>2 |
|----------------------|--------|--------|--------|--------|
| すてきな題材名              | 18.4   | 11.7   | 13.7   | 9.4    |
| いろいろな材料を利用           | 39.8   | 52.5   | 41.8   | 42.5   |
| 絵画と工作が一諸             | 30.7   | 25.5   | 24.0   | 21.5   |
| 体をつかつかって大きいもの        | 18.1   | 14.4   | 14.9   | 13.0   |
| 班やグループで              | 29.5   | 37.0   | 31.3   | 38.1   |
| 遊びを取り入れて             | 41.0   | 30.2   | 57.0   | 59.3   |
| 他教科と関連づけて            | 6.6    | 4.1    | 11.4   | 8.8    |
| その他                  | 0.3    | 0.9    | 1.8    | 2.7    |

(エ) 喜んで授業するとき

「興味のある題材名のとき」が小・中学校とも高く、興味のある内容に期待していることが分かる。中学校では「共同製作のとき」をあげている生徒が1年で35.7%、2年で33.9%いる。このことから未知の経験が児童生徒の喜びにつながるようになってくるので、題材名や内容の工夫が一層必要である。

表4 喜んで授業するとき

| 喜んで授業するときはどういうときか。(2つまで) | 小<br>5 | 小<br>6 | 中<br>1 | 中<br>2 |
|--------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 興味ある題材名のとき               | 60.5   | 70.1   | 64.0   | 47.8   |
| アイデアを練ったとき               | 35.5   | 29.3   | 22.2   | 20.4   |
| 授業の入り方に工夫                | 19.6   | 23.2   | 15.5   | 12.1   |
| 先生がていねい教えたとき             | 19.3   | 12.6   | 11.4   | 12.1   |
| 用具の使い方が分かった              | 32.8   | 27.3   | 22.8   | 24.2   |
| 共同製作のとき                  | 16.0   | 17.6   | 35.7   | 33.9   |
| 身近な材料をつかったとき             | 22.6   | 19.9   | 15.2   | 12.7   |
| その他                      | 7.5    | 1.8    | 1.8    | 2.9    |

(オ) 分からなくなったとき

製作していて分からなくなったときは、「友達と話し合う」児童生徒が小学校5年45.8%、小学校6年55.1%、中学校1年58.5%、中学校2年53.4%と最も多いことがわかる。次に「先生に相談する」「資料を見る」の順である。このことから、児童生徒が気軽に先生に相談できるように、工夫する必要がある。

表5 分からなくなったとき

| 製作していて分からないときはどうしますか。 | 小<br>5 | 小<br>6 | 中<br>1 | 中<br>2 |
|-----------------------|--------|--------|--------|--------|
| 先生に相談する               | 28.3   | 25.5   | 24.0   | 31.6   |
| 友達と話し合う               | 45.8   | 55.1   | 58.5   | 53.4   |
| 資料を見る                 | 13.0   | 8.5    | 6.4    | 8.0    |
| 自分で考える                | 8.7    | 10.9   | 5.8    | 4.7    |
| そのままにしてしまう            | 1.8    | 1.2    | 3.2    | 2.1    |
| その他                   | 1.2    | 0.6    | 1.2    | 0.9    |

(カ) 授業で力を入れていること

「作品をていねいにつくる」  
 「あきらめずに最後まで完成させる」が多く作品をていねいに最後まで、完成させようとしてしていることが分かる。「どんなものをつくか、つくるか考える」に対しては小学校5年で38.6%、小学校6年で36.1%、中学校1年で36.0%、中学校2年32.4%で構想を練っていることが考えられる。

表6 授業で力を入れていること

| 授業ではどんなことに力を入れていますか。(2つまで) | 小<br>5 | 小<br>6 | 中<br>1 | 中<br>2 |
|----------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 作品をていねいにつくる                | 53.9   | 63.9   | 60.8   | 55.5   |
| どんなものをつくか、つくるか考える          | 38.6   | 36.1   | 36.0   | 32.4   |
| 材料集めや道具の用意をしっかりとる          | 23.5   | 13.8   | 14.9   | 10.3   |
| あきらめずに最後まで完成させる            | 48.2   | 53.4   | 47.1   | 53.7   |
| 友達の作品のよいところを見つける           | 28.0   | 28.2   | 23.1   | 24.5   |
| ペーパーテストでがんばる               | 3.0    | 2.1    | 11.4   | 15.9   |
| その他                        | 0.9    | 1.5    | 2.0    | 2.1    |

イ 一人一人を生かす図画工作・美術の指導の実態

(ア) 題材や指導の幅

「十分幅を持たせている」「おおむね幅を持たせている」を合わせると、小学校で82.3%、中学校で84.2%あり、題材や指導に幅をもたせ、一人一人の児童生徒の個性を生かした指導がなされていることがわかった。このことから、題材や指導に幅をもたせることで、一人一人の思いや願いを大切にしたい授業が進められていることがわかる。

表7 題材や指導の幅

| 題材や指導に幅をもたせた授業をしていますか。 | 小<br>学<br>校 | 中<br>学<br>校 | 全<br>体 |
|------------------------|-------------|-------------|--------|
| 十分幅を持たせている             | 7.3         | 13.7        | 10.5   |
| おおむね幅を持たせている           | 75.0        | 70.5        | 72.8   |
| あまり幅を持たせていない           | 16.7        | 13.7        | 15.2   |
| ほとんど幅がない               | 1.0         | 2.1         | 1.6    |

(イ) 教材や指導に幅をもたせる方法

「いろいろな材料の利用」が小学校で67.7%、中学校で58.9%と多く、材料の選択で生かすことができよう。「魅力ある題材名」は小学校で33.3%、中学校で36.8%あり、児童生徒の思いを生かそうとしてしていることがわかった。班やグループの利用は小学校19.8%、中学校27.4%ある。このことから、材料の利用で活動が広がり、魅力ある題材名で豊かな構想を図っていることがわかった。

表8 教材や指導に幅をもたせる方法

| どのようにして教材や指導に幅をもたせているか。(2つまで) | 小<br>学<br>校 | 中<br>学<br>校 | 全<br>体 |
|-------------------------------|-------------|-------------|--------|
| 魅力ある題材名                       | 33.3        | 36.8        | 35.1   |
| いろいろな材料の利用                    | 67.7        | 58.9        | 63.4   |
| 平面や立体に分けずに                    | 7.3         | 14.7        | 11.0   |
| 全身的な活動のできる場所                  | 9.4         | 4.2         | 6.8    |
| 班やグループの利用                     | 19.8        | 27.4        | 23.6   |
| 遊びを取り入れて                      | 20.8        | 8.4         | 14.7   |
| 他教科と関連づけて                     | 14.6        | 6.3         | 10.5   |

(ウ) 複数の材料や方法の準備

「常に行っている」「ときどき行っている」を合わせると全体で75.4%あり、選択できるようにしていることが分かる。児童生徒の思いや考えを生かすには、材料や方法を選択できるようにしておくことが大切である。このことから、児童生徒自らが材料や方法を選択しているような準備をしていることが分かった。

表9 複数の材料や方法の準備

| 複数の材料や方法を準備しておいて、選択できるようにしているか。 | 小学校  | 中学校  | 全体   |
|---------------------------------|------|------|------|
| 常に行っている                         | 8.3  | 3.2  | 5.8  |
| ときどき                            | 65.6 | 73.7 | 69.6 |
| あまり                             | 24.0 | 18.9 | 21.5 |
| 全く行っていない                        | 2.1  | 4.2  | 3.1  |

(エ) 主体的に学習するための工夫

小・中学校の約60%の教師が「個に応じた支援」を大切と考えている。次に約40%が「興味ある題材名」をあげており題材の開発や与え方を工夫している様子がうかがえる。「毎時間の工夫」「製作カードの利用」をあげている者も多く、課題を明確にして製作に取り組ませるようにしていることが分かった。

このことから、主体的に学習させるためには個に応じた支援を工夫することが大切であると思われる。

表10 主体的に学習するための工夫

| 主体的に学習するためには何を工夫しますか。(2つまで) | 小学校  | 中学校  | 全体   |
|-----------------------------|------|------|------|
| 興味ある題材名                     | 40.6 | 38.9 | 39.8 |
| 製作カードの利用                    | 17.7 | 26.3 | 22.0 |
| 毎時間の工夫                      | 19.8 | 31.6 | 25.7 |
| 個に応じた支援                     | 61.5 | 57.9 | 59.7 |
| 用具類の利用方法                    | 21.9 | 16.8 | 19.4 |
| 共同製作                        | 12.5 | 3.2  | 7.9  |
| 地域にある材料の活用                  | 21.9 | 4.2  | 13.1 |
| 教室、廊下の環境の整備                 | 1.0  | 9.5  | 5.2  |
| その他                         | 4.2  | 5.3  | 4.7  |

(4) 意識・実態調査のまとめ

ア 児童生徒に対する意識・実態調査

- 児童生徒とも図画工作・美術の授業に対して楽しみしている者が数多く、興味・関心の高さがうかがえる。
- 喜んで授業するときは、内容に興味あることが求められているので、児童生徒の発達段階を十分考慮した教材が必要になる。

イ 教師に対する意識・実態調査

- 教師は、一人一人の児童生徒が個性を生かした製作に取り組めるように、題材や指導に幅をもたせた授業をしている。
- 主体的に学習させるためには、個に応じた支援が大切であると考えている教師が多く、個への支援が大切であることが分かった。

4 授業研究

研究主題に基づき、児童生徒一人一人を生かす教材や製作の工夫等の手だてを講じ、小・中学校各1校で授業研究を行った。

## 【授業研究1】 小学校第5学年「夢の〇〇をつくろう」（つくりたいものをつくる）

### (1) 授業研究のねらい

図画工作の学習活動は、児童一人一人の思いやよさ、もてるさまざまな可能性を作品製作を通して生かしていくことによって、その児童の資質や能力を高めていく活動である。

また、その活動を通して児童は作品製作に対する楽しさや快さ、喜びの感情を味わうことができ、そのことが進んで思考したり活動したりするエネルギーを生み、主体的に活動することになる。

しかし、現実の図画工作の授業において児童は、題材により作品が限定されたり、その方向性を自ら限定してしまったりして、自分の思いやよさが十分生かされず、意欲を失ってしまったりする傾向が生まれる。また、自らの欲求を題材に生かすイメージや発想が十分に生まれても、限定された教材や素材を使用することにより、その実現がはばまれてしまうなどの問題がでてくる。

そのため、それらの場面において題材を工夫したり、素材の使用について十分に考え、試行する時間をもつことが必要になってくる。

そこで、児童の思いやよさを生かし、児童一人一人が生き生きと造形活動をするための題材や指導についてどのようにすればよいかを「夢の〇〇を作ろう」の授業を通して究明することにした。

### (2) 一人一人を生かし生き生きと造形活動ができるようにするための手だて

#### ア 題材の工夫

発想やイメージを広げることができ、自らが素材と深く関わっていけるようにするために、統一されたものではなく家庭にある多種多様なスクラップを素材とする。

また、素材や製作過程での一人一人のイメージを大切に生かして行くために、題材を限定せず「夢の〇〇をつくろう」とする。

さらに、接合がイメージを生かせるよう今回はホットボンドを主な接着剤として利用する。

#### イ 素材との十分な関わりの時間の確保

家庭にある身近なスクラップを素材とすることで、材質の特性を理解し、扱いに慣れるように支援する。

また、作品を製作していく上で十分な材料体験の時間を与える。初めて接合する素材も多いため、接合方法の資料を準備し手だてを工夫する。

#### ウ 製作の連続化

立体表現の特徴である形のおもしろさとイメージが形になっていく感動を、グループ学習の中や教師の言葉掛けによって感じることができるようにする。

製作カードの利用は、イメージの変化や計画の変更によって生まれる新たな形のおもしろさや美しさがさらに次の形につながるよう、製作のそれぞれの段階において製作を振り返ったり、新たなイメージをスケッチに残したりするようにする。

#### エ 友だちどうしの認め合い・学び合い

グループ形式で製作することにより、互いの作品のよい点に気付いたり、製作のヒントを発見したり、構築の技法を教え合ったりできるようにする。

### (3) 授業の実践

ア 学習の主題 「現実にはない空想の動物や植物・機械などを、スクラップを利用して楽しく、自由に構築し、表現する。」



イ 題材名 『夢の〇〇を作ろう』

ウ 題材について

この題材は、家庭にあったスクラップを利用して、つくりたいものを豊かに発想し、つなぎ方や組み合わせ方、構造など、素材の生かし方などを工夫しながら、自分の夢や願いを具現化していこうとする学習である。この学習の発想の手がかりとなるスクラップの一つ一つは、本来、ある機能を持っていたものである。それぞれの形や大きさはどれも不統一であり、それぞれを一つの形のおもしろさとしてとらえるのに魅力的な造形材料である。

スクラップの多くは、それ一つでは元のある機能性を持った物体を想像してしまうものである。しかし、児童はそれを自分の手で組み合わせることによって、まったく別の形を作り出すことになる。それぞれが異なる要素を持ちながらも組み合わせることによって、それ一つでは考えられないであろう形を作り出すことができる。多くの児童は、スクラップそれ一つ一つのもとの形から離れ、新しい形を作り出しながら自分のイメージの世界を広げることになる。

ここで大切なのは、スクラップという材料をもとに自分なりの加工や組み合わせを行っていく中で形が生まれ、その形からイメージされることをどんどん広げ、さらに別の新しい形を作り出していく活動である。

今回の製作では、自分独自の思いや想像をもとにしてスクラップを集め、自由に組み合わせることから学習が始まる。そして、スクラップを集めるときから、作りたい内容そのものへのかかわりは深まり、製作が進むにしたがいその製作意欲は高まっていくと期待する。

エ 本題材で期待する児童の姿

- (ア) スクラップから作りたいものを発想し、その思いやイメージをふくらませる。
- (イ) 作りたいものの大きさや形、構造などについて見通しを持ち、何をどのように表現したらよいか、方法や手順を考えながら取り組む。
- (ウ) 最後まで粘り強く自分の表現を追究していく。
- (エ) 友だちの作品のよいところを認め、互いに作品を高めていく。

オ 学習の流れと授業の記録（8時間扱い）

| 時 | 活動の流れ            | 支援の手だてと児童の反応   | 資料・準備  |
|---|------------------|--|--|
| 1 | 1 スクラップを集める。(事前) |  |  |
| 1 | 2 主題をきめる。        | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">夢の〇〇をつくろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いくつかを接合して見せることで、構築のイメージが持てるようにしたい。</li> <li>○ 「自由に組み立てていいんだよ。」「自分だけの〇〇をつくってみよう。」と問いかけることで、自分の思いやイメージを生かすことができることを知らせ、製作意欲をもたせたい。</li> </ul> | 構築物の例<br>(できるだけ抽象的な形態をしているもの)<br><br>接着剤、はさみ<br>ペンチ、台板<br>ドライバー<br>スクラップ |
| 2 | 3 スクラップを選ぶ。      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ イメージに合わせ、使えるようなスクラップを選ぶことができるよう支援する。</li> <li>○ 児童の前で製作を実演することで、大きさや形、材質、重さ等の製作要素について</li> </ul>  | 素材についての参考作品  |

|   |     |           |  |                            |
|---|-----|-----------|--|----------------------------|
| 3 | 4   | 製作する。     | 考えるヒントとしたい。  |                            |
| 4 | (1) | 大まかに製作する。 | ○ 接着剤の使用について注意を与え、事故のないように配慮する。                              | 掲示用資料<br>・換気について           |
| 5 |     |           | ○ 製作中にイメージ通りにならず、製作意欲が失われることがないように、組み立て方を考える時間を十分に確保する。      | ・道具の安全な使用について              |
|   |     |           | ○ イメージに近い形を探したり、分解したり形を組み合わせたりにしてイメージに近づけていた。                | 接着剤、はさみ<br>ペンチ、台板<br>ドライバー |
|   |     |           | ○ バランスに注意を払い、組み立てた作品が壊れることのないようにし、製作意欲が失われることがないように配慮する。     |                            |
|   |     |           | ○ 製作が進むことによってイメージが変化していてもかまわないことを知らせ、思いが十分に作品化するようにする。       |                            |
| 6 | (2) | 装飾をする。    | ○ いろいろな方向から見て、全体のイメージとバランスを考え装飾的な材料を着けると、より〇〇らしくなることに気付かせたい。 |                            |
| 7 | (3) | 塗装をする。    | ○ 作品をスプレーで塗装することによってイメージを明確に表現できるようにした。                      | 掲示用資料<br>・スプレーの正しい使い方      |
|   |     |           | ○ 形がひきたつようにスプレーする部分を考えながら、塗装していた。                            | スプレー                       |
| 8 | 5   | 作品を鑑賞する。  | ○ 技術的な善し悪しに左右されることなく互いの作品を賞賛し合えるように配慮する。                     |                            |
|   |     |           | ○ 互いの作品を認め合うことによって、次作への意欲を高めていけるようにしたい。                      |                            |
|   |     |           | ○ 作品製作において、工夫した点や苦労した点などを中心に、作品の紹介文をまとめることができるようにする。         |                            |

#### (4) 授業の分析と考察

##### ア 活動状況から

すべて自分で準備し、計画を立て活動することは初めてであったが、それぞれの児童が自分のイメージを形にしようと集中して製作していた。作品の大きさも児童により違っていたが、グループで互いに援助したり接合の方法について相談したりすることも多く見られた。

製作カードを見ると最初のスケッチの他に、どの児童も2～3枚のスケッチを残しており、製作活動の中でイメージが変化していったり、広がっていったりしたことがうかがえる。

また、活動計画と反省を見ると満足を示す金色のシールが多く、銀や赤のシールは少なかった。このことからそれぞれの段階での活動に児童は満足感をもっていることがうかがえる。

製作では材料が多種多様であるため、思うように接着できないという心配もあったが、ホットボンドが効果的に利用でき、ガラスや発泡スチロール、金属まで十分に接着できた。そのため、イメージがどんどん形になっていく楽しさを感じながら意欲的に製作する姿がみられた。

作品を見つめる目も生き生きとして、授業が終了して作品を片付けるときなどは自分の宝物を扱うような表情を見せていた。

#### イ 作品から

題材を限定しなかったこと、材料がスクラップという児童にとって扱いを慎重にしないですむものであったという点で多くの試行がなされ、多様な作品が製作された。(資料1)

製作後の感想からも資料2のようなものが多くみられ一人一人自分の思いが作品に現れていると感じていることがうかがえる。

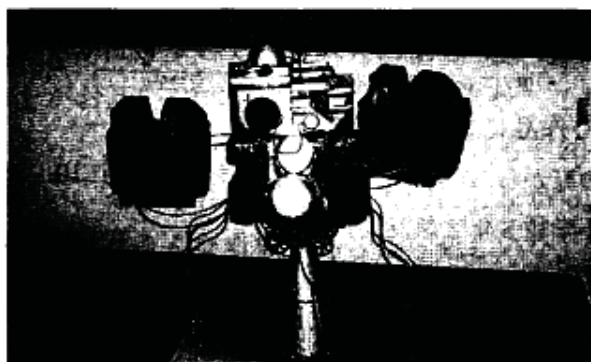


図1 完成作品

#### 資料1 製作後の感想

さーいりょうあつめるときに自分の使う物かなかったらどうしようと、しんはいした。でも家からもてくればいいと思ってあしんした。いちばんうれしくて楽しかったのは、作品ができた時ですくろうしてあつめた材料で使ったさくびんは、とてもすごく楽しかった。とそうは、くさりのをガマンしてぬりました。色はちやくとぬ水ヲした。

#### ウ 製作後の意識調査から

図2は、作品の大きさや道などある限定された条件でつくりたいものをつくる題材「私の町からきみの町へ」と今回の授業終了後のアンケートの比較である。

それによると、限定された作品ではなく、材料からイメージを広げていくという方法をとったため完成作品にイメージを固定されることなく自由にイメージが広がったり、変化していったと考えられる。

また、初めて使う接着剤（ホットボンド）が、今までの接着剤と違い使いやすく児童のイメージを十分に形にしていけることができたのであったと考えられる。

さらに、児童それぞれの独自の活動であり、できあがった作品や製作過程での工夫について個性的

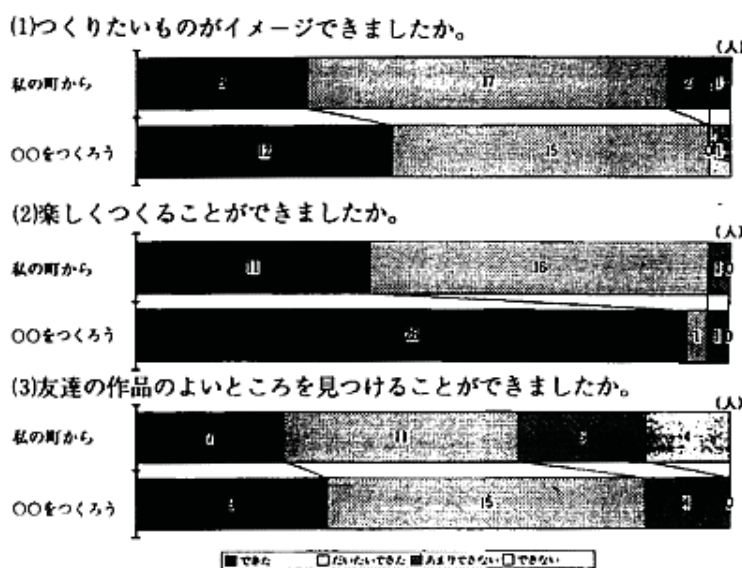


図2 製作に対する意識調査

(私の町から H 7. 7. 3, 〇〇をつくらう 10. 30実施  
A 小学校 5年2組28人)

なものが多く友だちの作品の素晴らしい点を感じられたと考えられる。

図3は、製作の段階ごとの満足感を複数回答で調べ比較したものである。前回の製作と比べると「楽しかった」と回答した児童は11人増加している。特に製作場面での充実感が高くほぼすべての児童が楽しさを感じており、児童が意欲的に活動できたことが分かる。

また、友達作品や自分の完成作品に対する意識にも変化がみられ、自分の作品に対する満足感やそれぞれが自分のイメージを大切にしてつくった個性ある作品に興味をもてるようになっていくことがわかれる。

図4は作品に関する意識調査でほとんどの児童がイメージ通り、できたと感じていることが分かる。

これは、製作段階ごとにラフスケッチを通してイメージを形に残すことを形に残していったことが、次の段階の製作をスムーズなものにしたと思われる。あまりできないと答えている児童は、「塗装段階でイメージと違ったものになった。という意見を製作後の感想の中に書いており、スプレーの使用経験が少なくイメージと違ってしまったことやスプレーの色数が6色と制限があったためと考えられる。

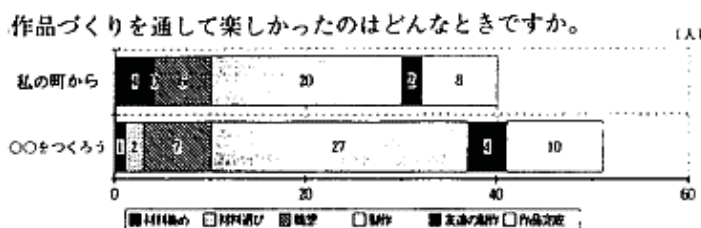


図3 製作過程における満足感

(私の町から H 7. 7. 3, 〇〇をつくろう 10. 30実施)

A 小学校5年2組28人)

自分の作品をどう思いますか。

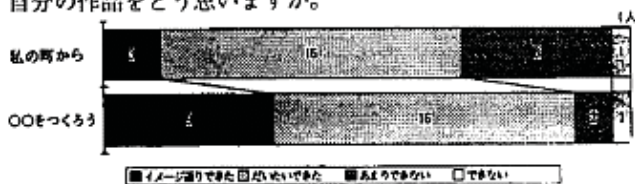


図4 作品に対する意識調査

(私の町から H 7. 7. 3, 〇〇をつくろう 10. 30実施)

A 小学校5年2組28人)

## (5) 授業研究の成果

ア 題材の工夫によりイメージを作品に結び付けることができ、製作に満足感をもつ児童が増えた。また、接着剤にホットボンドを使用することによって、イメージの広がりが大きなものとなり個性的な作品の製作に結びついた。

イ 材料体験を十分にすることによって、独自の製作方法や個性的な作品を製作する児童がより一般化した。

ウ 作品についてのイメージをラフスケッチに残していくことにより、製作意欲の維持、高まりがみられた。

## (6) 今後の課題

ア 作品を塗装する場合、素材がスクラップであるため、すべてを十分に塗装することができない。そのためにより効果的な塗装方法を考えたい。

イ それぞれの作品のよさを発見できるように、作品を見る感性をどう育てていくか。児童はすごいとか、かっこいいとか、きれいとか、よさを発見する。しかし、その反対の言葉も当然でってくる。このような美的範囲の限定されている児童の指導を考えたい。

ウ この作品製作体験をどのようにして次の作品に生かしていけばよいのか。また、その題材はどのようなものであるかを考えたい。

## 【授業研究2】 中学校第1学年「こんな看板があったら楽しいな」（視覚伝達デザイン）

### (1) 授業研究のねらい

今回の研究テーマである「一人一人を生かす図画工作・美術指導の在り方」は、図画工作・美術のねらいである「表現および鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動の（基礎的な）能力を（育てる）伸ばすとともに、（表現）創造の喜びを味わわせ美術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う」ということを基礎に行うべきである。

一人一人の能力、心情、感性等はそれぞれ違っている。その違い方も、例えば一本の道のスタートと途中、というような一つの視点から見た程度や進度の違い方でなく、進む道そのものが違っているのである。つまり、他と比較して、それぞれがそれぞれのよさを持っているという意味である。

図画工作・美術の題材を、野原全体と考えてみよう。題材のねらいとして「野原の向こうの川を越えてみよう」と設定される。しかし、ねらいとしての川に至るまでには草花が咲き、小鳥が飛び、そよ風もさわやかに吹き抜けていく。これらもその野原（題材）に含まれる大切な要素である。思い思いに歩いていく途中で、児童生徒が何に感動し、興味を持ち、どのように対象に接していくかは、歩いている本人に任せられている。また、岩の上に乗っている誰かや、歩いている同士がお互いに声をかけ合って、「おや、こんなものがあるよ、見て見て!」というような光景もきっと見られるだろう。川の渡り方もそれぞれの自由である。一人一人がみんな違って、みんないい。それぞれの感じ方を大切にしながら、学習を以上のような考えを基に設定したのが、今回の題材「こんな看板があったら楽しいな」である。

この題材は、主にデザインの領域の中の「視覚伝達デザイン」の学習につながるものである。「伝え手である作者の意図が、受け手である見る人に正しくしかも快く伝わらなければならない」と中学校指導書美術編にはあるが、とにかく何のためにどのような内容を伝えたいのかを明確にし、それをどのような方法で表現し、どこに飾って、最終的にだれに伝えたいのか、ということをも美術の表現活動を通して学んでいくわけである。生徒は模倣を好み、考えたり構想したりすることを敬遠する傾向にある。これらの点を考慮し、生徒の「遊び」心を、意欲に訴えかけられる「架空の看板づくり」という題材を設定した。

生徒が、この看板の制作を通して視覚伝達デザインの目標を達成しながら、楽しく美的に「制作して」ほしいと考えた。そして何よりも、自由な雰囲気の中で一人一人がそれぞれの考えを出し、その考えたことをどのように表現していくか、一人一人の意欲的な挑戦が見られれば、と考えた。

### (2) 主体的に活動できるようにするための手だて

既成の事実内容を伝えようとする場合、その内容自体に伝え手自体がかかわりを持ち、「自分の課題」としてしっかりと把握されていないと、その後の制作活動は意欲の高まりのない、機械的なものになってしまう恐れがある。今回の看板づくりの場合は、自分独自の願望や期待を基にして、伝達する内容を一人一人が自由に空想して作るころから学習が始まる。従って既にその時点で内容そのものへのかかわりは深くなり、制作への意欲もより高いものになると期待する。

そして、その意欲の高まりをさらに持続し発展させながら、今回の研究テーマでもある「一人一人を生かす図画工作・美術指導の在り方」に迫るために、制作時では次のような手立てを講じた。

ア 一人一人が自分なりのイメージをしっかりととらえられるように、時間の確保や援助を十分に  
行い、多様な学習の展開を図る。

イ 参考作品や技法の紹介、制作途中での作品鑑賞等、制作の段階に応じた援助・支援をしてい  
く。

ウ 求めるイメージをどのように追究していくか、自己の学習計画をしっかりと立てさせる。た  
だし、計画の途中変更はどんどんさせていく。

エ 制作に使用する材料等は特に規制せず、生徒が自分自身のアイデアを表現するのに一番適  
切な表現材料を選択できるようにする。

オ 制作時での試行錯誤を十分に行えるようにし、生徒が自分自身で方法を発見しながら制作を  
進めていけるように配慮する。

カ 表現材料が類似した者同士でのグループ学習を取り入れ、表現技法等の学び合い、教え合い  
を大切に、それらがスムーズに行われるよう配慮する。

キ 学習計画表に基づいた自己評価を活用し、生徒自身による反省、検討、自己修正が行われる  
ようにする。

美術は「心」～「頭」～「手」という流れが大切になる。感じたこと、心に思うことをどのよ  
うに表したらいいか考え、実際に平面や立体で表現していく。このことが、一人一人のなかで深  
く、広く、十分に行われ達成できたとき、その一人一人が創造する喜びや表現する楽しさ成就感  
等を味わえるだろう。これらの手立てを通して、そのねらいに少しでも近づくられたらと考えた。

### (3) 授業の実践

ア 学習の主題 「現実にはありえないようなユニークな内容も含めて、伝えたいものを楽しく  
自由に、そして効果的に表現、伝達のデザインする。」

イ 題 材 名 「こんな看板があったら楽しいな」

ウ 目 標

| 目 標  | 評 価 の 観 点 |      |      |    |
|--|-----------|------|------|----|
|  | 関意態度      | 発想構想 | 創造技能 | 鑑賞 |
| ・ 自ら看板に表す内容を決定し、自分の技能や制作時間等を考慮しながら自分に合った計画を立て、意欲的に制作していこうとする。    | ◎         | ○    |      |    |
| ・ 現実にはないような楽しい看板の内容を考え、どのように表現していくか構想を練り上げ、その表現を追究していくことができる。    | ○         | ◎    |      |    |
| ・ 自分の制作意図に合った材料や表現技法、用具等を考え、準備し、工夫して使用しながら、最後まで粘り強く作り上げることができる。  | ○         | ◎    | ◎    |    |
| ・ お互いの作品を鑑賞することを通して、自他の作品のよさや努力点等を認め合うとともに、自らの作品や制作態度に生かすことができる。 | ○         |      |      | ◎  |

エ 学習の流れと授業の記録 (14時間扱い)

| 時           | 活動の流れ   | 支援の手だてと生徒の反応  | 資料・準備  |
|-------------|---|---|--|
| 1<br>2<br>3 | <p>1 楽しい看板（架空でもよい）の内容を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>この世界に、こんな看板があったら、楽しいだろうな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験別脳味噌新発売</li> <li>・ 劇団ろくろ首入団試験案内</li> <li>・ テレキネシス人類の集い</li> <li>・ ドラキュラ族啓発ポスター</li> <li>・ 溶けない飴</li> <li>・ 動物や植物の声が聞こえる耳</li> <li>・ 口下手な人のための口</li> <li>・ ミライミエラー</li> <li>・ 月へ餅つきツアー</li> </ul> | <p>○ 「ドラえもんの四次元ポケット」の話をし、こんなことができたらいいな、というような発想から、現実にはありえなくてもいいから、こんな看板やポスターがあったら生活が楽しいだろうな、と思うようなアイデアをできるだけ数多く引き出そうとした。地球環境保全等、真面目な内容でも構わないことも話したが、誰もいなかった。</p> <p>○ 新聞の広告を持ってこさせて人の目を引き付けるアイデアを考えさせた。</p> | <p>看板の参考作品</p> <p>クロッキーブック</p> <p>新聞広告</p> <p>学習計画表</p>              |
| 4           | <p>2 看板の表現について、自分なりの構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現の種類は？ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平面・半立体・立体</li> </ul> </li> <li>○ 表現の材料は？ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙（薄紙、厚紙…）</li> <li>・ 木・粘土・金属…</li> </ul> </li> <li>○ アイディアスケッチ➡下図完成</li> <li>○ 作品完成までの計画を立てる。</li> </ul>   | <p>○ 自分の表現したい内容に合った表現方法を十分に検討させ、技術的・時間的に可能であればどんなものでも自由に選択させようとした。</p> <p>○ 材料は基本的に自分で用意するようにしたが、教師が画用紙、段ボール紙は用意して活用させた。</p>  | <p>クロッキーブック</p> <p>画用紙</p> <p>段ボール紙</p> <p>ベニヤ板</p> <p>切り開いたアルミ缶</p> |

|  |                            |   |  |
|--|----------------------------|---|--|
| <p>5 3 自分の計画に沿って、看板を制作<br/>6 する。<br/>7<br/>8 (1) 描画材料は<br/>9<br/>10 (2) 表現方法は<br/>11<br/>12 (3) 切断、接合の方法は<br/>13 (4) ロゴやレタリングは<br/><br/>(5) 最終的な仕上げは</p> |                            | <p>○ 同じような表現方法の生徒を一つのグループにし、その中での教え合い、学び合いを大切にしようとしたが、生徒にとってはあまり必要でなかった。</p> <p>○ 制作途中での計画変更は自由に行えるようにし、途中での思い付きや友達からの取り入れを生かし、自分なりの表現を自分なりに追求させた。</p>                | <p>画用紙・段ボール紙その他生徒の必要とする材料とそれを加工する道具</p> <p>ポスターカラーセット</p> <p>ワープロ</p> <p>コピー機 (拡大)</p> |
| <p>14</p>  | <p>4 お互いに作品を発表し、鑑賞し合う。</p> | <p>○ 説明文等細かい字の部分は、手書きでは難しいのでワープロを使用して制作させてみた。</p> <p>○ 立体の作品を意識的に紹介したところ部分的に取り入れる生徒も出てきた。</p> <p>○ どこに、どのように置けば一番自分のイメージに近付けられるか、環境も含めた中での鑑賞を行った。そして相互のよさを認め合わせた。</p> | <p>カメラ</p> <p>完成作品</p> <p>鑑賞カード</p>  |
| <p>14</p>  | <p>4 お互いに作品を発表し、鑑賞し合う。</p> | <p>○ どこに、どのように置けば一番自分のイメージに近付けられるか、環境も含めた中での鑑賞を行った。そして相互のよさを認め合わせた。</p>   | <p>カメラ</p> <p>完成作品</p> <p>鑑賞カード</p>  |



図1 レタリングをワープロで



図2 発表のようす

(4) 授業の分析と考察

ア 活動状況から

訴えたいことを自分で考え、様々な表現方法を用いて制作していくことは、生徒にとって難しさも伴うが、一人一人違った題名にしようとしたり、他の生徒にない表現方法を探ろうとしたりして、自分なりの表現を実現していこうという意欲と態度が見られた。題材の種類



表現種類、表現方法・材料から生徒の活動状況を見てみると次のようになる。

|         |  |
|---------|--|
| 題材の種類   | うさぎとかめ世紀のリターンマッチ 本の世界へ入ってみませんか 竜宮城観光ツアー おなら消しパンツ 空を飛べる薬・パンツ 仙人セット 宇宙旅行 亀ん武闘会 すてきな景色が見える窓 いやな心洗濯機 ほれ薬 満点シャープン 満点眼鏡 病気になれる薬 眠れない人のための本 世界一速く走れる足・靴 スーパー野球グッズ (ホームランバット・ファインプレーグラブ・スチールスパイク) 透明人間になれる 幽霊が肩凝りを治す |
| 表現種類    | 平面のみ42% 半立体52% 立体4%  |
| 表現方法・材料 | 段ボール工作 マーブリング スパッタリング コラージュ 紙粘土 新聞紙 空き缶 毛糸 脱脂綿 写真 ニス ベニヤ板  |

イ 作品を制作しての生徒の意識から アイディアを考える段階から制作していく活動中も意欲的に、楽しんで取り組んでいたことがうかがえる。ねらいをしっかり踏まえていれば、できるだけ生徒が自由に活動できる場を保障していくことが大切であることを、再認識した。

#### (5) 授業研究の成果

「一人一人を生かす図画工作・美術指導の在り方」という研究主題に照らして、本題材における生徒の活動の姿を振り返ると、次のようである。

ア 看板の内容を自分なりに「創ってもよい」という題材の提示は、一人一人の意欲を刺激したようで、友達と同じような内容になると、「同じじゃつまらない」と、デザインを変更するなど、自分なりの表現を求めたいという気持ちを高められた。

イ 多くの段ボール紙を用意し、ふんだんに使えるようにしておいたが、一人が使い始めると他の生徒もどんどん利用し、厚さ、大きさ、折れ曲がっている所の使い方等、自分の作品のイメージに合ったものをそれぞれが選択していた。また、思い切った試行錯誤も行っていた。

ウ 平面、半立体、立体その他材料も含めて、生徒の考えに合わせて選択できるようにしてみたところ、いろいろ工夫できる幅が出て、生徒一人一人の個性が表出できたと思う。ただ材料面で紙以外のものが出てこなかった。材料面から見た題材との関係の重要性を改めて感じた。

エ 今回ワープロを使って看板に書かれる小さな文字を制作させてみた。これを拡大コピーして自分のイメージに合った大きさにし、貼りつけたわけだが、生徒達は2台置いておいたワープロを結構自在に操り、お互いに教え合いながらとても興味を示し、字体の変更等も行ったりして楽しく制作していた。レタリングが苦手な生徒も、きれいな字がどんどん印字されて出てくるのをうれしさいっぱいの眼差しで見つめ、思い思いの倍率で拡大し、自分の看板に貼りつけていた。現代の時流も考えると、もう既に以前から叫ばれており、実際にコンピューターグラ

#### 資料1 学習のまとめカードから

#### 学習のまとめ 2年 1組

| 自己評価 ABC    | 〈自分の作品の感想〉～題【ウサギとかめ世紀のリターンマッチ】 |
|-------------|--------------------------------|
| ・説明が上手だった。  | A                              |
| ・想像力が豊かだった。 | B                              |
| ・想像力が豊かだった。 | B                              |
| ・想像力が豊かだった。 | B                              |
| ・説明が上手だった。  | A                              |
| ・想像力が豊かだった。 | A                              |
| ・想像力が豊かだった。 | B                              |
| ・説明が上手だった。  | A                              |

〈授業の感想〉  
 この授業では、自分が思ったことを、好きな様にできるのが、とても楽しかったです。

ック等を授業で取り入れている実践例も目にするが、やはりパソコン等を授業の中でもっと活用し、生徒がアイデアを考えたり実際に制作したりすることが、もっと楽しくもっと容易にできるようにしていく必要があるだろう。



図3 着色のようす



図4 材料の利用

#### (6) 今後の課題

一人一人を生かすということには、一人一人が表現したい様々な思いを持っていること、そして表現すること自体に喜びを感じる事が前提になるだろう。どうしてもただ既成のものを模倣しがちになり、自分で考えることを嫌う傾向や、創り出すことに対し本気になれない生徒も多くなってきている生徒の実態を考え、今回の成果を踏まえつつやはり美術教育の原点に戻り、創造することの喜びを、表現することが楽しいという気持ちを引き出すような、題材の開発や授業での手だてを今後とも考えていかなければならないと思う。

#### おわりに

2年間にわたり「一人一人を生かす図画工作・美術指導の在り方」を主題として、理論研究、調査研究及び授業研究を行い、調査研究の中から児童生徒が何を指導に期待しているのかを読み取り、どのように理論や授業の中に生かしていくのかを追究した。授業研究では一人一人が生き生きと自ら表現する喜びを感じながら製作していたのが印象的であった。一人一人を生かすのには、あくまでも児童生徒の立場に立って教材を設定することが必要である。

今回の研究において、次のような点が明らかになった。

ア 児童生徒が主体的に学習するためには、一人一人の思いが生きるようなゆとりのある題材の構成を考えることが大切である。

イ 一人一人のイメージをアイデアスケッチや構想メモで明確にさせ、それを材料で製作できるように、材料や用具の活用を工夫させるなどの、児童生徒の製作に合わせた指導が大切である。

ウ 小学校の授業研究では、様々な道具を準備することで、製作を固定的にせず表現に幅をもたせることができた。選択できる活動は、一人一人の思いや願いを実現させ、児童が主体的に取り組むための支援の仕方として大切である。

エ 中学校の授業研究では、生徒の実態に合わせて表現する楽しさやおもしろさを加味した題材「架空の看板づくり」で、内容と材料を試行錯誤することにより、生徒が主体的な学習を展開することがわかった。

以上のように、本研究を通して、はじめて明らかになった点も多いので、これらを基に今後も、継続して研究に取り組んでいきたい。